

研究テーマ	[I 造形教育で培う力を考える] 共同製作による造形遊びを通して、つくりだす喜びを味わう授業の工夫 — 小学校第5学年 造形遊び 「アレッ?コレ, ナニ? (場所との関係を考えながら意外性のあるものをつくる)」 — の実践を通して
-------	---

水戸市立鯉淵小学校 教諭 安田 知子

## 1 研究テーマについて

「造形教育で培う力」とは図画工作科の目標全体を指すものであると捉えるが、ここでは、特に、「つくりだす喜びを味わう」ことを目標とした授業の工夫を研究テーマに掲げた。

学習指導要領解説図画工作編のなかで、図画工作科のめざす姿として「豊かな情操を養う」ことが示されているが、これこそが人間形成における造形教育の役割であると考えられる。そして、「豊かな情操を養う」ためには、造形活動において自己実現を目指し、つくりだす喜びを味わう体験を重ねていくことが最も大切であると考えた。

今回の研究にあたり、「つくりだす喜びを味わう」ために、題材の工夫、製作の過程、相互鑑賞の3つの場面において仮説を立て、検証することとした。

1つ目は、「題材として、共同製作による造形遊びを設定することで、発想が広がり、技能的な面を補い合いながら、つくりだす喜びにつなげることができるのではないか。」ということである。高学年では、造形遊びの題材自体が少ないので、新鮮であり、発想によって様々な作風に発展するので、楽しみながら活動できると考える。また、個人製作の場合、発想も偏りがちになり、構想の段階からつまづくことも予想されるが、複数の児童の意見を交流していくことで、選択肢も増え、発想の広がりが期待できる。構想の段階で各自の感性を生かして発想が広げられるよう、導入での投げかけやワークシートの形式を工夫していきたい。

2つ目は、「コミュニケーションを図りながら共同製作を進めることで、目標が明確になり、完成時の達成感が増し、より大きな喜びにつなげることができるのではないか。」ということである。作品の形が具体化されていく中で、意図的にコミュニケーションの機会を差し込み、さらにアイデアを盛り込んだり、軌道修正したりできるようにすることで、作品の完成度や思い入れを高められるようにしたい。また技能面で苦手意識をもつ児童でも、友人の賛同や協力が得られるため、失敗を恐れずアイデアを試すことにも挑戦していけるのではないだろうか。

3つ目は、「作品完成後、校内の思い思いの場所に設置した自他の作品を相互鑑賞し、そのよさやおもしろさを味わい、感想や気づきを伝え合うことで、喜びをより実感できるのではないだろうか。」と考える。もともと、見る人を驚かせる、楽しませることをねらった作品製作なので、当然児童は製作中も見ると人の反応を思いえがきながらつくっている。その期待通り、もしくはそれ以上の反応が返ってきたとき、製作した児童たちは心から喜びを感じられるだろう。そこにつなげるために、製作中もその思いを盛り上げることはもちろん、鑑賞についても、全校児童に呼びかけ、休み時間等を利用して鑑賞してもらおう機会を設け、より多くの人の意外な反応を期待し、楽しめるようにしていきたい。

発想・構想、製作、鑑賞といったそれぞれの段階での手立ては、最終的には作品鑑賞後に味わう「つくりだす喜び」をより大きなものにするために設定した仮説であるが、その「喜び」が、それにつながる、協力して作り上げたという達成感、自信、作品への愛着といった思いも含めて、「豊かな情操を養う」ことになることを信じて研究を進めていきたい。

## 2 実践例

(1) 題材名「アレッ?コレ, ナニ? (場所との関係を考えながら意外性のあるものをつくる)」

(2) 題材の目標

- 場所や材料に進んで関わり、造形活動を楽しもうとしている。  
(造形への関心・意欲・態度)
- 場所や材料の特性を考えながら、日常生活の場に置くと楽しく意外性のあるもののアイデアについてイメージを膨らませようとしている。  
(発想や構想の能力)
- 場所や材料を選び、これまでの経験を生かしながら効果的な表し方を工夫している。  
(創造的な技能)
- つくった作品を生活場面に置いて相互鑑賞し、作品のよさや工夫に気づき、場所との相乗効果のおもしろさを楽しむことができる。  
(鑑賞の能力)

(3) 題材について

本題材は、学習指導要領解説図画工作編第5学年及び第6学年の内容 A表現(1)ア「材料や場所などの特徴をもとに発想し想像力を働かせてつくること。」に関するもので、特に発想や構想の能力に重きを置いた題材であると捉える。具体的には、身近な場所である校内の一角に、あるはずのないものや本物そっくりの巨大化されたオブジェやミニチュアのオブジェなどを置くことで、見慣れた風景が意外性のある世界につくりかえて楽しむことをねらいとした造形活動である。実際の場所を手がかりにするため、きっかけがつかみやすく、発想の自由度も高いので、様々な発想の広がりが期待できる。また大がかりな作品が予想されるので、グループ全員の協力が不可欠になり、そのため完成後の達成感がつくりだす喜びにつながりやすいと考える。

本学級の児童は、図工が好きな児童が多い。普段の絵画や工作の製作の様子を見ても、新しい題材や技法などに高い興味・関心を示し、教師にアドバイスを求めて積極的に自分のアイデアを試したり、思うようにいかなくても何度もやり直ししながら完成度を上げようとするなど意欲的な児童がほとんどである。しかし、なかには、苦手意識の強い児童もおり、特に個人製作に置いては、自分の発想や技能に自信が持てず、構想の段階からつまづいてしまい、自分の思いを十分形にできずに途中でやる気を無くしてしまう場面も見られる。

まず、導入時に教科書に掲載してある作家作品や児童作品を鑑賞し、イメージと活動の概要をつかんでから、校内を見て回り、場所との関係を考えながらつくるものを具体的にイメージしていく。次にグループで、ワークシートにそってアイデアを出し合い、作品についてのストーリーを考え、イメージを具体化していく。材料は、身近で手に入りやすく、扱いやすい段ボールなどの紙類を主材料とし、試行錯誤しながら工夫して製作していけるようにする。そして完成後は、思い思いの場所に作品を設置して相互鑑賞し、様々な気づきや感想を話題にしながら作品を楽しませたい。

発想・構想から、製作、鑑賞までの流れの中で、作品を介して、人や場所、材料、鑑賞者とのコミュニケーションを重ねることにより、個々の感性が深まることも期待したい。

(4) 題材の評価規準

図工への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・場所や材料に進んで関わり、造形活動を楽しもうとしている	・場所や材料の特性を生かして、意外性のあるもののアイデアについてイメージを膨らませている。	・場所や材料を選び、これまでの経験を生かしながら効果的な表し方を工夫している。	・作品を相互鑑賞し、形や色のよさや工夫に気づき、設置場所との相乗効果の面白さを楽しんでいる。

(5) 指導と評価の計画( 時間扱い)

※○印は時数

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	・教科書の作家作品を鑑賞し、活動の見通しをもつ。 ・作品を置きたい場所を決め、作品の構想や製作のアイデアを練る。	・題材の意図やねらいを理解し、製作への意欲をもつ。 【観察】 ・場所の特性を生かした意外性のある作品になるようアイデアを出し合っている。 【観察・ワークシート】
第2次 ⑥	・アイデアスケッチをもとに、グループで共同製作をする。 ・場所や材料の特性を生かして、驚きのある楽しい作品になるよう。確認、修正をしながら製作を進める。	・材料によって適切に道具を使い分けている。 【観察・作品】 ・形や大きさ、色などの効果を考え、イメージを具体化している。 【観察・作品】
第3次 ①	・作品を展示し、相互鑑賞をして楽しむ。 ・作品を鑑賞し合い、そのよさや工夫について伝え合う。	・互いの作品のよさや工夫についての気づきや感想を伝えあい、作品を楽しんでいる。 【観察・ワークシート】

(6) 本時の展開

◇目標

- ・自他の表現の意図や特徴，意外性などをとらえ，面白さやよさを感じ取ることができる。
- ・身近な場所に展示することを前提に，ミニチュア化したり巨大化したりするとおもしろそうな意外性を感じさせる作品を工夫して表すことができる。

◇準備・資料

ワークシート（計画表），段ボール，色画用紙，ラシャ紙，新聞紙，布，段ボールカッター，ガムテープ，ネオカラー，刷毛，パレット，水入れ，ボンド，すずらんテープ

◇展開

※テーマとの関連：ゴシック体表記

学 習 活 動 ・ 内 容	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価 ○ 発 問
<p>1 本時の学習課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>表し方を工夫し，おどろきと楽しさのある作品を作ろう。</p> </div> <p>2 グループで協力して，製作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育館のフロアに魚の群れ</li> <li>・ 図書室に海ぼうず</li> <li>・ 校庭の木の枝にナマケモノ</li> <li>・ パソコン室に電車</li> <li>・ 巨大な鉛筆と消しゴム</li> <li>・ くつ箱にミニチュアの部屋</li> </ul> <p>3 本時の活動を振り返り，次時の製作について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画表を見て，製作の手順・分担などについて確認させ，作業の見通しがもてるようにする。</li> <li>・ 材料，道具などを使いやすいように配置し，作業を効率よく進められるようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業内容によって，作業机の上，床面などの作業スペースを確保して安全に製作できるよう助言する。</li> <li>・ 作業を分業化しすぎて，全体のイメージを知らないまま作業することがないように，随時コミュニケーションをとりながら進めるよう声かけをする。</li> <li>・ 大きな構造物をつくる活動なので，作業の手順を考えながら，ある程度計画性をもって取り組めるよう導く。</li> <li>・ 作業しながら生まれる新しいアイデアを取り入れるときは，グループで話し合っ，方向性を確かめ合いながら進められるようにアドバイスする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>図</b> 身近な場所に展示することを考え，意外性を感じさせる楽しい作品を工夫して表すことができる。（観察・作品）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業が停滞している児童には，友人を手伝うなどグループ内で一緒に作業を進めるように声かけし，その中で自分のすべきことに自然に気づいていけるようにする。</li> <li>・ グループでお互いの作業の進み具合を確かめ合う時間を設け，次時の見通しがもてるようにする。</li> <li>・ 計画に，変更や付け足し，材料の追加などがあればワークシートに加筆させ，次時の作業にスムーズにつなげられるようにする。</li> </ul>

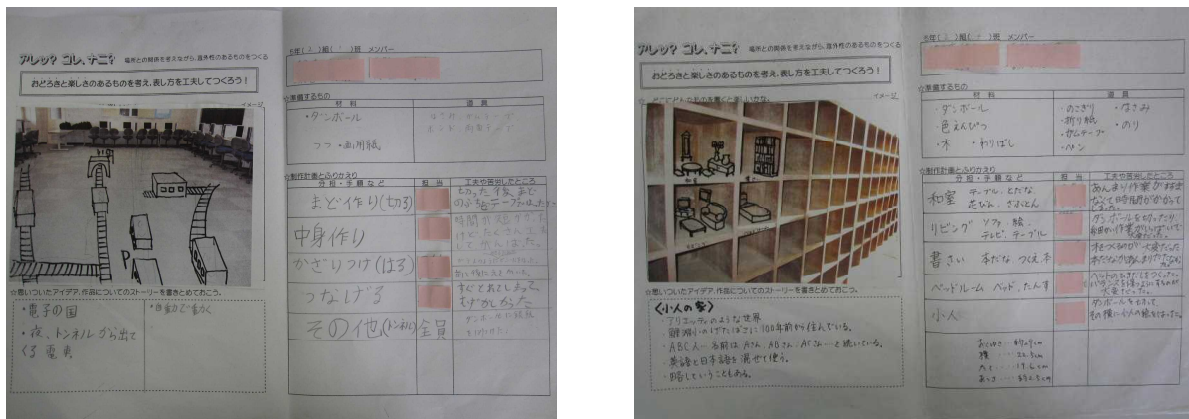
### 3 成果と課題

#### (1) 成果

○ **題材として、共同製作による造形遊びを設定することで、発想が広がり、技能的な面を補い合いながら、つくりだす喜びにつなげることができるのではないか。**

- ・題材自体のおもしろさもあり、ねらいをすぐに理解し、様々な発想を広げることができた。
- ・普段見慣れた生活の場面を、違った視点で見ることができ、発想自体を楽しんでいる様子がうかがえた。
- ・多くの児童が、アイデアを複数提案していた。なかなか自分のアイデアが提案できない児童もいたが、友人の意見に賛同したり、異論を言って構想段階の話し合いを深めることができていた。
- ・ワークシートに発想・構想を書き留めることで、作品への思いや方向性がある程度統一され、見通しをもって効率的に作業を進めることができた。
- ・共同製作ということで、手先があまり器用でなく作業が遅れがちな児童も、得意不得意を考えて分担を交換したり、自然に手助けを求めたりするなど、抵抗なく製作することができていた。

#### (ワークシート)



○ **コミュニケーションを図りながら共同製作を進めることで、目標が明確になり、完成時の達成感が増し、より大きな喜びにつなげることができるのではないか。**

- ・作業場所と材料、道具といった環境面を整え、自由に作業できるようにすることで、児童は、必要なときに友人同士でコミュニケーションを図り、作業内容を確認していた。
- ・コミュニケーションをとりながら作業を進めるなかで、どんどん新しいアイデアを取り入れ作品を進化させていたり、逆に計画通りに行かない部分はすぐに代案を考えたりして、心を1つにして作業する様子が感じられた。
- ・途中段階においてもアイデアがうまく形になった時などは、その部分を見せ合って歓声を上げる様子が見られるなど、つくりだす喜びを味わっている様子が多々感じられた。
- ・製作途中の作品でも、教師や他グループの友人が第三者の鑑賞者としての視点から、感想やアドバイスを伝えることが、「見る人」を意識してつくることにつながった。



コミュニケーションを図りながら製作を進めている様子



○ 作品完成後、校内の思い思いの場所に設置した自他の作品を相互鑑賞し、そのよさやおもしろさを味わい、感想や気づきを伝え合うことで、よりつくりだす喜びを味わえるのではないだろうか。

- ・ 児童は、みんなに見てもらうことをとても楽しみにしていた。
- ・ 自分たちで作品を設置している段階で、その意外性の予想通り（予想以上）の効果に満足し、楽しんでいる様子がうかがえた。
- ・ 自分たちの作品への愛着から、作品に名前を付けたり、紹介文を添えたりするなど、見る人に伝えたという思いが強く感じられた。
- ・ 全校児童へ作品鑑賞の案内をし、昼休みを利用して一斉に鑑賞してもらえたことは大変よい機会となった。他学年の友人の反応を直接見聞きし、その結果にとっても満足した様子だった。他学年の児童も、すべての作品を鑑賞しようと校内を行ったり来たりしながら、びっくりしたり、笑ったりしながら楽しんでくれた様子だった。

(完成作品、相互鑑賞)



(2) 課題

● **時間的な問題**

発想がふくらみ、意欲が高まったなかでの製作ではあったが、限られた時間のなかで、アイデアすべてを形にできないグループもあった。構想の段階で、時数も意識させるべきだったとも思うが、せっかく膨らんだ発想を制限してしまうことになることとのバランスが課題として残る。

● **材料の選択**

材料（段ボール、紙類、ガムテープ、すずらんテープなど）をある程度限定しての製作だったが、もう少し幅をもたせ、作品に合った材料を考えさせられるとよかった。

● **一人一人の記録（ワークシートの工夫）**

共同製作時の評価基準を吟味し、一人一人の細かい見とりのためにワークシート等の工夫が必要と感じた。

● **動画による記録**

つぶやきや表情などの動画の記録は、製作意図や試行錯誤の過程、作品への思いなどが読み取れ、評価や児童自身の振り返りに活用でき、有効と考えるが、指導しながらの撮影は難しい。撮影場面を限定したり、インタビュー形式にしたりするなど、工夫しながら少しずつ試していきたい。